（第２号様式）

令和５年３月 31 日

神奈川県教育委員会教育長　殿

県立霧が丘高等学校長

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組みの内容		校内評価		学校関係者評価 （３月６日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①学校のミッション、生徒の実態、教育ニーズに即した新たな魅力と特色づくりを推進する。 ②インクルーシブ教育実践推進校としての取組みを推進する。 ③これからの時代に必要な資質・能力を育成するため、主体的な学びの向上、探究的な学びの推進、グローバル化・ＩＴ化への対応を見据えた取組みを行っていく。	①今年度から実施された新教育課程に各教科がスムーズに対応していく。 ②中高連携事業、研修、外部機関との連携等を通じ、共生社会の実現に向けたインクルーシブな学校づくりをさらに推進する。 ③1・2 学年を中心に ICT（iPad）を活用した授業研究を進める。	①新教育課程について、生徒のキャリアニーズや探究的な学びの習得に向けた科目の内容や選択ができているか検証していく。 ②連携生を対象とした学校設定科目の内容の精選と、希望進路の実現に向けた進路指導の充実化を進める。 ③ ICT（iPad）を活用した授業の研究や研修、教員向け講習等を行い、幅広く活用できるよう推進する。	①新学習指導要領の目的と学校教育目標を踏まえた上で実施できているか。 ②学校設定科目の内容の精選と、希望進路の実現ができたか。 ③ ICT を活用するにあたっての課題を共有し、解決に向けての取組みができたか。	①文系・理系に留まらず、選択科目を数多く展開し、生徒個々の探究的な学びに対し対応できた。 ②科目「自己と社会Ⅰ～Ⅲ」の内容を精選することにより、各自の進路を実現させる一助とすることができた。 ③普段の授業から ICT 利活用を実践し、どの科目でも一定程度利用しながら授業を進めることができている。	①生徒の学び方が多様化する中で、今までの学習内容に加え、さらに深く広い観点で学習していく必要がある。 ②今後も個人の進路実現に向けてその内容を精査していきたい。 ③教科・科目により利用程度に差があるので、教員研修を充実させ、さらに ICT を活用できる環境を作れるようにしたい。	①いくつか若手教員の授業を見たが、時間管理をしっかり行い、学習の振り返りを取り入れるなど、よくやっていた。今後も人材育成の視点を持って校内研修等を実施してほしい。 ③ICT については、小中高の継続性も考慮しながら、ますます活用を進めてほしい。同時に ICT を用いなくても効果的な授業の在り方も研究してほしい。また、生徒が主体となるデジタルスキル向上のための取組ができるとよいのではないか。	①新教育課程への移行、生徒のキャリアニーズの多様化に応えられているが、さらに教員のスキルアップが求められる。 ②今後も科目「自己と社会」の授業の充実化を図りたい。 ③ICT 利活用の実践と推進は徐々に進められているが、学校関係者から求められている小中高校の継続性や活用法、教員のスキル向上など研修を深めたい。	①教員一人ひとりが生徒の期待に応えられるよう、教科内外の研究授業等の校内研修を活用する。 ②特別募集生の進路実現のために年次毎に振り返りをする。 ③年々高まる生徒のデジタルスキルに対応できるよう、今後も ICT を活用した授業展開について教員研修を進める。また、生徒同士での学び合いができる環境づくりも進めていく。
2	生徒指 導・支援	①自らの夢や目標に向かってチャレンジしながら未来を切り拓いていく力を育成するとともに誰もが霧高生であることにプライドが持てる活気ある学校づくりを行っていく。 ②多様性を受け入れ、他者を認め合い、支え合いながら主体的に課題を解決する力を育成するとともに、「インクルーシブな学校づくり」を行っていく。 ③規律と秩序のある生徒指導ときめ細かい支援体制を確立する。	①行事、委員会、部活動等、生徒主体の活動経験を丁寧に積み重ね、社会の様々な変化に対応できる柔軟な思考力、行動力を向上させる。 ②生徒対処研修会を通じ、互いの良さや多様性を認め尊重し合う力を育みながらインクルーシブな学校づくりを進める。 ③コロナ感染の収束が見えない中、変化する生活様式に適応できる規範意識の醸成を図る。多様な生徒の実態に応じた共通意識と指導体制の確立に努める。	①生徒主体の活動機会を広げ、変化し続ける状況や条件、人としての基やルールへの理解を深め、自ら進んで創意工夫を重ねられるよう支援する。 ②インクルーシブ教育に係る生徒研修会を年間４回以上開催し、多様性を認め問題を解決に向け考え実践する機会とする。 ③コロナ感染予防に対する生徒の行動の確認のホームルームでの声掛けや巡回指導で確認する。 ③人権に対する意識を養うための声掛けやポスターによる啓発をする。 ③個別の対応では、担任・生徒支援の教員による面談やケース会議を有効に活用していく。	①生徒主体の活動が増えたか。委員長会、部長会の活動を活性化できたか。 ①生徒の行事への満足度が向上したか。 ②研修会を通じ、相互理解や多様性を認め合う機会を設けることができたか。 ③生徒の日常における生活マナーができているか。 ③人権教育の講演などを実施した後の生徒の様子、アンケートから人権意識が向上したか。 ③面談や SC、ケース会議が有効に活用され、生徒の支援を組織的に行うことができたか。	①運営委員会、部長会、委員長会の会議も増え、委員会それぞれの特性を活かした主体的な活動ができた。対面での選挙、総会、募金活動なども再開でき、来年度へ繋がる経験を積むことができた。 ②視覚障がいの講師の実体験を踏まえた講演を通して、障がいについて理解を深め、多様性について改めて考えるきっかけとなった。 ③日常の挨拶や時間を守る規範意識はかなり育っているように思う。コロナの状況も３年目を迎えマスクや咳エチケットについては当たり前にできるようになっている。 ③LGBT の講演では、講師が卒業生だということで生徒たちも真摯に内容に耳を傾けていた。事後アンケートからも多様性に対する理解が深まったという回答が多く得られた。 ③カウンセリングに関しては予約が毎週ほぼいっぱいの上状況で SC と養護教諭、担任及び学年団での情報共有は円滑に行われた。また、学年ごとに生徒情報や指導方法を共有することでよりきめ細かい指導体制が確立された。	①リーダー研修会など互いに学び合う機会、意見交換の機会などを積極的に作る。特に地域や他校との交流の機会を積極的に設ける。 ②知的障がいに限らず、多様性を認め合い解決に向けて考える研修会は、インクルーシブ教育実践推進校にとっては本質的な活動であり、次年度以降も複数回実施したい。 ③来年度からコロナが感染症第５類となり、日常生活の規制も緩くなるが気持ちの部分で緩まないように指導は続ける必要がある。 ③ダイバーシティーについては生徒の意識を高めていく必要がある。個人の価値観の違いや他者への思いやりの気持ちの育成には SDGs の観点からも考えさせていきたい。 ③多様な生徒の対応は今後ますます複雑になってくると感じる。家庭との連携も含めて教育相談センターを中心に学年団での情報と意識の共有も大事になってくるだろう。	①新型コロナウイルスの影響で様々な制限があったが、徐々に回復傾向にあることから、控えていた交流ができるようになったことはよかった。今後も地域との交流の機会を設けていってほしい。 ③言葉遣いについては、生徒に指導するだけでなく、教職員も注意を払ってほしい。 ③SNS のマナーやモラルについて、ICT のスキルとともに情報の授業が核となると考えられる。しっかり指導してほしい。 ③日常的に生徒が元気に挨拶できる学校というのはとてもよい。今後も指導を継続し、笑顔のたくさんある学校を目ざしてほしい。	①限られた条件の中で、生徒の主体的な活動の機会を最大限に広げることができた。今後も全力で活動の幅を広げていきたい。 ②研修を通して、多様性について考え実践しようとする態度を養うことができた。 ③学校関係者からの教員の言葉遣いに関する指摘は真摯に受け止め、心の通った指導を進めたい。 ③SNS に関するマナー、モラルは全体での指導と日々の授業を通して浸透させていきたい。 ③世の中の多様性に加え生徒も様々な感性をもって入学してくるが、「挨拶・笑顔・元気」と普遍的に大切なものの重要性を伝えていきたい。	①行事や地域との交流機会等を通して、あらゆる可能性に目を向けながら、生徒が自ら考え実行に移せるような流れを作る。 ②知的障がいに限らず、多様性を認め合い解決に向けて考える研修会を、次年度以降も複数回実施する。 ③教室や授業の場面では勿論のこと職員室でもお互いに尊重しあう、風通しの良い職場環境の構築を目指す。 ③講習会での講話だけでなく学年集会や授業で SNS の適切な使用方法をことあるごとに伝えていく。 ③アフターコロナになってからの日常の変化に生徒たちが戸惑わないよう、色々なことに早めの対応を心掛ける。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組みの内容		校内評価		学校関係者評価 （３月６日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①職業的・社会的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成し、自らの力で生き方を選択し、自己の未来を切り拓いていく力を育てる。 ②生徒一人ひとりが自らの意思によって将来の進路を選択し、自己実現を果たしていくための能力の育成に向けた指導・支援を行うとともに、生徒のあらゆる進路ニーズに対応したキャリア支援教育（進路指導）体制を構築する。	①自己の生き方と社会の課題を意識した計画的・系統的なキャリア教育を推進し、社会的自立に必要な力を継続的に育成する。 ②生徒一人ひとりがめざす進路実現に向け、目標達成のための様々なプログラムの提供と指導、情報発信をしていく。	①総合的な探究の時間を中心に、自己理解・他者理解を通して主体性・多様性・協働性を涵養する。 ②ポートフォリオの蓄積により、将来の目標の明確化、課題の発見、対策への取組み等を視覚化し、よりよい進路選択への一助とする。 ②引き続き外部資格・検定の校内実施を行い、受験機会を増やす。	①学年末の振り返りで行う生徒の自己評価で、変容を確認できたか。 ②ポートフォリオが蓄積でき、それを進路実現のための PDCA サイクルに活かせたか。 ②資格・検定への取組みが増えたか。	①進路研究の活動の中で自己理解や自己のキャリアと社会の課題とのつながりを認識する機会を持ち、成長を実感できたという自己評価が多く見られた。話し合いやグループワークを復活させたことで、他者を理解し協働して課題に取り組む機会が増やせた。 ②自己推薦書や志望理由書の作成の際にポートフォリオを参考することによって、進路実現に活用できた。 ②実用英語技能検定の第３回（１月 22 日）を校内実施し、準２級 36 名、２級 20 名が受検した。昨年より３名減だが、２級への挑戦は増えた。	①進路選択と社会の課題をつなげる意識をより低学年から持たせたい。 ②実用英語技能検定の第３回の１次試験結果が高校入試による自宅学習期間に送付される可能性があり、２次試験の受験票手交に支障をきたすことも考えられるため、第２回（10 月実施）に行うことができるか検討する。	①キャリア教育について、新型コロナウイルスの影響で上級学校訪問を控えるなどの対応を余儀なくされたことは残念だったが、外部から講師を招いて話をしてもらう機会があったことはよかった。今後は外部機関との連携をさらに進めて、生徒の進路に対する意識を向上させてほしい。 ①指定校推薦による進学が多いということだが、入学後に大学の授業についていけるよう学習の継続が必要である。	①コロナ禍においても外部機関との連携を可能な範囲で進めていく。 ①進路が決定しても継続的に学習に向かう姿勢を維持させることが課題である。キャリア支援グループだけの問題ではなく、授業担当者全員による取組が必要である。	①オンラインを活用した学校説明会、リモートでの上級学校の授業体験などを計画的に取り入れる。 ①学習評価を厳正に行い、評定に見合った実力を身に付けられるよう全教科で取り組んでいく。また、３年生の進路決定後にも継続的な学習が行われるよう学習内容を精選する。
4	地域等との協働	①保護者や地域社会に対し、本校の教育活動についての理解を深めてもらうための積極的な情報発信と学校ＰＲを行っていく。 ②地域との交流や協働、地域貢献等を通じ、地域に開かれ、地域と共にある学校づくりに取り組む。	①学校ホームページ、学校紹介動画、学校説明会、チャレンジスクール、地域連携や行事などを通じ、保護者や中学生、地域住民に対し積極的な情報発信を行っていく。 ②社会の状況を踏まえつつ、地域や保護者等との連携、協働の機会を模索し、生徒の社会貢献、交流の経験値を向上させる。	①校内外の学校説明会を通じて、霧コンシェルジェをはじめとした本校生徒の活動を発信する。 ①学校ホームページを適切に更新するとともに、広報動画、活動動画等内容の充実を図る。 ②生徒が地域のために何ができるかを考え、また地域が霧高生とどのような関わりを求めているかなどの情報を集め、その機会や方策について研究し、実践する。	①説明会参加者へのアンケートで肯定的な回答が 80%以上となったか。 ①ホームページ更新が月１回以上できたか。 ②地域や保護者等と連携した活動を実施することができたか。	①３回の説明会の実施において、いずれについても 95%以上の肯定的回答を得た。 ①ホームページ更新を行える担当者を増やすことで、更新の頻度を上げることができた。 ②吹奏楽部は若葉台商店街 40 周年式典のオープニングやクリスマス行事、保育園等の行事での演奏を、生徒会本部は旭警察、緑警察のご指導の下若葉台小学校の防犯教室の防犯劇を任されるなど、地域との交流を深めることができた。また、来年度の参加依頼をいただいた。	①実施会場、実施日時、内容等を再度検討し、令和４年度をさらに上回る説明会の実施を目指す。また、広報促進物品も揃えたい。 ①令和４年度中にホームページの刷新を行う。また、新たに「1 回/月更新システム」を構築し、令和５年度以降の更新体制を整える。 ②地域の方々から直接お話を伺い、状況が許せば老人ホーム等施設でのボランティア再開の準備を進める。	①学校ホームページを工夫している点は評価できる。中学生も注目しているので、学校の魅力をどんどん発信してほしい。 ①学校行事の動画配信や写真掲載は保護者にも好評だった。通知等も PDF にして載せてもらえるとよい。 ①広報として TVK や神奈川新聞などのメディアを利用してはどうか。	①学校ホームページにアップする内容については、グループでの検討と同時に周囲からの意見をいただく必要性も感じる。 ①他のメディアの活用はタウンニュース等利用しているが、さらに積極的に行いたい。50 周年記念検討センターとのタイアップも考えられる。 ②コロナ禍で経験の蓄積が途絶え、また制限下仕様で行っていたこともあり、初めて体験することばかりで、把握できないことや失敗も多かったが、再開のきっかけを確実に作ることができた。	①会場、日時、内容等を再度検討し、今年度をさらに上回る説明会の実施を目指す。 ①今年度中にホームページの刷新を行う。また、新たに「1 回/月更新システム」を構築し、来年度以降の更新体制を整える。 ②来年度も継続して参加できるイベントでは、目的意識を高め、今年度以上に計画、準備を念入りに行い、生徒が様々な実感を得られるように促す。また、積極的に行動範囲を広げていく。
5	学校管理 学校運営	①保護者から信頼され、地域から愛される安心・安全な学校づくりを行う。 ②防災意識を高めるための防災教育を地域や保護者と連携しながら組織的に行っていく。 ③教職員が生き生きと教育活動に取り組むことができるための「働き方改革」をさらに推進していく。	①耐震補強工事中の安全を確保し、学習環境を整備する。 ②災害に対して、生徒の防災意識を高め、教員の組織的防災体制を確立する。 ③風通しの良い職場環境を醸成するとともに、事故・不祥事防止研修などを通じて事故・不祥事の未然防止に取り組む。	①工事による教育活動への支障ができるだけないように関係機関との調整を行い、安全安心で快適な学習環境づくりに努める。 ②校内防災組織の見直しを行い、防災訓練にて実践的な動きの確認を行う。それに伴い、防災関連の倉庫や備品の整備、危険個所のチェックを行う。 ③職員が主体となる事故・不祥事防止研修を定期的に開催する。	①工事中の学習環境を整え、生徒の安心安全を確保することができたか。 ②防災訓練を実践的な内容で実施できたか。 ③事故・不祥事防止研修を何回実施したか。また、不祥事ゼロを達成できたか。	①引越作業を含め、工事日程・工事場所の確認を行い、事前に危険個所の把握や安全な動線を確保することができた。 ②４月に仮校舎での避難訓練を行い、10 月には本校舎での DIG 訓練を行った。 ③事故・不祥事防止研修を 12 回実施した。また、不祥事は０件だった。	①仮校舎での授業は今後も継続するので、生徒の安心安全を考えた整備を継続して行っていきたい。 ②年度内に校舎引越しが行われ、HR 教室の移動があった。その関係で年度内に２回の避難訓練が必要だったと考える。次年度以降の課題にしたい。 ③引き続き事故・不祥事の未然防止に努める。	①教室内にゴミ箱がなくてもゴミが落ちていることもなく、きれいに使用している様子が分かってよかった。今後も環境美化を心がけてほしい。	①施設の整備・管理について、生徒・職員共に安全に配慮して生活することができた。校内美化や感染症対策についても、意識の高まりがみられた。 ②自然災害を想定した防災訓練だけでなく、今後は火事や不審者対策についても、訓練が必要である。 ③事故・不祥事防止研修を定期的に開催し、職員の意識向上を図ることができた。	①工事による施設利用の変更点については、事前打ち合わせの徹底や注意喚起を行い、事故防止に努める。 ②防災対策について、地震のみならず、様々な場面を想定して実践的な訓練を企画する。 ③定期的な研修の開催に加え、職員間での気づきや声かけを大事にしていきたい。